



## ☆実行委員会スタート 充実した祭典にするためにできることを考えよう☆

5月19日(金)18時30分から「第1回『全国教育のうたごえ祭典 in みやぎ (仮称)』」の実行委員会がうたごえセンターで行われた。会には地元の準備委員会のメンバー12人(実行委員長・吉岡和弘弁護士、副委員長・岡村さん、事務局長・村田さん、他、紫金草・ひまわり・サニーから)の他に、全国の教育のうたごえ役員全員(藤村さん、箱崎さん、佐藤さん、桐生さん、近藤さん)もリモートで参加して下さった。

会は、歌「駆けてきてよ」の斉唱で始まった。(今回実行委員長を引き受けて下さった吉岡弁護士は、今全国で上映中のドキュメンタリー映画「生きる」【東日本大震災でたくさんの児童・教員がなくなった大川小学校の父母たちが、「なぜ自分たちの子どもが亡くならなければならなかったのか」と自分たちで調べ、周りの人々に聞き、教育委員会の人たちと話し合い、どうしても納得がいく答えが見つからないので訴訟を起こした時の二人の弁護士さん(吉岡さん・斉藤さん)の一人で、勝訴に至るまでの様子が映像化されたものだ。】吉岡弁護士が大川小学校の中を歩き回るシーンから始まっていた。映画のエンディングで歌われていた歌の、作詞・作曲をされている。透明なソプラノで歌われていた歌が心にしみた。ちなみに吉岡さんは長い間の「うた新」読者です。

続いて、岡村さん、藤村さん、吉岡弁護士のあいさつが行われ、本題に入った。

1月の総会の時、来年の全国教育を引き受けるということが了承された後、4回の準備委員会が開かれ「宮城の教育祭典で目指すもの」「日程」「会場」「音楽会の企画」「フィールドワークの企画」等の案が話し合われ提案された。一つ一つについて説明され大筋で了承された。話し合いの中で京都の桐生さんが話された「6月17日まであと少し、てんやわんやわちゃわちゃやっています。」の言葉が、妙に現実味を帯びて心に残っている。

## ◎宮城で開催する教育のうたごえ祭典でめざすこと

- ・東日本大震災の発災からこれまで全国から寄せられた支援に感謝する。
- ・復興に向かい頑張ってきた人々や震災後の宮城で成長してきた若者のことを知ってもらい、宮城の今を伝えたい。
- ・現場の先生や子ども・若者を巻き込んでつながり、生き生きとした祭典にしたい。

## ◎日程・会場案

- ・8月第4週 23日(金)～25日(日)

※会場はパトナホール・イズミティ小ホール・市民会館小ホール等を考えているが、会場申し込みは一年前で、競争がとても激しいので予断は許さない。宮うた協の総力を借り頑張るつもりだが。

## ◎「音楽会の企画」「フィールドワークの企画」詳細はこれから煮詰めていくことになる。

※2024年8月まではまだまだ時間があると思うでしょうが、創作曲を複数作りたいと考えているので、いくら時間があっても足りない。また実行委員会関係者全員がどこかに所属して、コンサートの時にも増しての「総力戦」で納得のいく祭典にしたい、ということで終了。《今は「パトナイズミティ」が当選することを願うのみ》

目が覚めました

庄子 良一

先日、私が代表をしている「あくまで平和を歌う会みやぎ」の総会がありました。

告白すると縦断コンサートの見通しが立たない今、店じまいする時期だなんて思って臨みました。

しかし、出席したみんなの発言を聞いて雷に打たれたような気がしました。

少し披露します。

「私はこの合唱団にしか所属していません。それは『悪魔の飽食』を歌いたいからです。」「『悪魔の飽食』はレベルが違います。」・・・

「小林さんに十数年間、指導してもらっていたこの合唱団をそう簡単に潰せないな。」代表として何も努力してこなかったなと心が痛みました。

これからは少人数だけれど、全国には同じ思いをする何百人何千人(?)の仲間がいる。練習会の回数は減らさなければならぬけれど工夫して自主練の方法を考えよう。・・・と「ぎっくり腰」の布団の中で決意したところです。

今まであった「悪魔の飽食」縦断コンサートDVDの映写会など企画します。

その時は是非おいで下さい。